



# 世田谷文学館友の会 おしらせ 第164号

2023年3月23日  
世田谷文学館友の会  
〒157-0062  
世田谷区南烏山 1-10-10  
世田谷文学館内  
FAX 03-5374-9120  
ホームページ  
<https://setabuntomo.net/>

## 2023年度 総会及び総会記念トークのお知らせ (再掲)

世田谷文学館友の会は、2023年度の総会及び世田谷文学館と共催で総会記念トークを開催いたします。

日時・場所：4月8日(土) 於)世田谷文学館 1F 文学サロン

**総会** 午後1時～1時40分 (受付1時半より)

**記念トーク** 午後2時～4時 (午後1時40分総会終了次第入場)

会員のご入場：総会及び記念トークご参加者は、ご入場時に「2023年度会員証」並びに友の会から郵送した記念トーク参加案内の「返信はがき」のご提示をお願いします。

会員以外のご入場：記念トークご入場時に、友の会から郵送した記念トーク参加案内の「返信はがき」のご提示と「参加費1,500円」をお支払いください。

なお、ご入会(年会費1500円)希望の方は事前にお手続きいただけましたら幸いです。  
ホームページ「世田谷文学館友の会」>[友の会へのお誘い](#)>■入会お申込みフォームへ。

### 【世田谷文学館・世田谷文学館友の会共催 総会記念トーク】

#### ～ 作家・宮部みゆき氏 「私の好きな清張作品」 ～

話題の作家、宮部みゆきさんがご登場です。松本清張(1909-1992)の作品について、愛読者であり実作者でもある立場から、読書の楽しさ・面白さをお話しくださいます。取り上げる清張作品は、長篇『砂の器』(上・下 新潮文庫)、短篇「張込み」、「声」(両短篇ともに新潮文庫『なぜ「星図」が開いていたか』に収録)です。お時間のある方は、あらかじめ作品に目を通していただければ、トークの面白さが倍加すること確実です。『砂の器』『張込み』は日本映画のベスト10に入る名作(橋本忍脚本、野村芳太郎監督)でもあり、清張さんご自身も気に入っていたとのこと。原作と映画との関係についても、宮部さんにお話を伺うことになるでしょう。

聞き手は、友の会会長の平尾隆弘氏、並びに吉安 章氏(いずれも元文藝春秋)です。

### ◆◆◆ 2023年度会員証を本号に同封しました ◆◆◆

2023年度の会員継続のご協力に感謝いたします。3月13日までに年会費をお振り込み済みの会員の皆さまへは、2023年度の「会員証」を本号に同封しましたので、必ずご確認ください(既にお渡し済みの会員を除く)。

### ◆◆◆ まだ会員継続手続きをなさっていない方へ ◆◆◆

会員継続手続きをなさっていない方は、郵便局に備えられた振替用紙を使用して下記要項にて年会費をお振り込みください。ご入金を確認次第、新年度会員証をお送りします。

◎2023年度年会費 : 1500円

◎加入者名 : 世田谷文学館友の会

◎郵便振替口座番号 : 00180-4-93582

◎通信欄 : 現在の会員番号(6桁)

### 【館の窓口手続きについて】

年会費の納入は原則、郵便振替としますが、文学館3階の窓口でお手続きされる場合は、年会費のみ受領し、会員証は追ってお送りします。なお、友の会スタッフの在館する火曜日は会員証もお渡し可能です。

### 俳句鑑賞会

4月18日(火)、5月23日(火) 午前10時半～正午

文学館2階講義室 参加費 200円 秀句一句とご自作があれば一句お持ちください。

\*次の「おしらせ165号」は6月上旬発行予定です。

(裏面に続く)

## 文学散歩 『たけくらべ』が生まれた町を歩く

～ 台東区竜泉界限・一葉記念館 ～

イギリスには「高く飛ぶためには、思い切り低くかがむ必要がある」ということわざがある。樋口一葉が名作『たけくらべ』を書くために、そして奇跡の14カ月という大きな飛翔を遂げるため一番低くかがんだのが、この竜泉時代であろう。一葉の竜泉時代の日記である「塵の中」には明治中期の遊郭吉原を囲む貧しき人々の生活が赤裸々に描写されている。『たけくらべ』は夏の千束稲荷の祭りから暮れの鷲(材刈)神社の酉の市までの僅か半年足らずの間の少年少女たちの物語である。

遊女たちの投げ込み寺として有名な浄閑寺を皮切りに、吉原の土手、日本堤などと呼ばれた土手通りを歩く。「廻れば大門の見返り柳いと長けれど」という見返り柳と大門を見る。脇にお歯黒溝の石垣跡。大門をくぐると往年の花魁道中の繰り広げられた仲之町通り。吉原神社を抜けた先に検査場(現台東病院)がある。酉の日だけ遊廓の跳ね橋が開くのだが、ちょうど鷲神社の裏手になる検査場の門には跳ね橋を渡ろうとする若者が押し寄せ群れ騒ぐ。その中を髪を結い上げた美登利が俯いて歩く。「大人になるのはいや」と泣く。

一葉母子が祭見物した吉原弁財天、鷲神社を経て、道路を隔てた向いに信如の龍華寺のモデルと言われる大音寺を見て、一葉の旧居跡のある茶屋町通りへ。この通りは遊廓を行き来する人力車が通る道であり、美登利が草履を投げつけられた筆やの店先があり、水仙の作り花が差し込まれた大黒屋の寮もあった。角を曲がればすぐ「台東区立一葉記念館」である。ここで、一葉の人生に、作品に、明治の吉原界限に出会うことができる。国際通りを横切り、地名由来の龍泉寺に立ち寄り、最後に千束稲荷神社へ。物語はここから始まるのだ。

- 日時 : 5月11日(木)及び5月14日(日)(両日とも同じコース、小雨天決行)  
集合 : 12時40分集合、東京メトロ日比谷線「三ノ輪駅」③番出口地上(会旗あり)  
コース : 三ノ輪駅 ⇒ 浄閑寺 ⇒ 土手通り(旧日本堤) ⇒ 見返り柳 ⇒ 大門跡  
⇒ お歯黒溝の石垣跡 ⇒ (仲之町通り) ⇒ 吉原神社 ⇒ 花園公園(台東病院の前)  
朗読『たけくらべ』 ⇒ 吉原弁財天 ⇒ 鷲神社 ⇒ 大音寺 ⇒ 一葉旧居跡  
(茶屋町通り) ⇒ 一葉記念館(約1時間見学) ⇒ 龍泉寺 ⇒ 千束稲荷神社  
⇒ 東京メトロ日比谷線「三ノ輪駅」16時解散予定(歩行約6km)  
参加費 : 800円(一葉記念館団体入館料、保険代含む) 案内: 友の会スタッフ  
募集人数 : 各日20名程度  
申込方法 : 往復はがき、もしくはホームページ4月10日より可、詳細は下記。  
申込締切 : 4月24日(月)必着、**第一希望日・第二希望日を必ず明記ください。**  
(応募多数の場合は希望日調整あるいは抽選)

### 【世田谷文学館からのお知らせ】

2023年度の年間企画展を次のとおり予定しています。

- 上期: 「石黒亜矢子展」 2023年4月29日(土)～9月3日(日)  
下期: 「江口寿史展(仮)」 9月30日(土)～2024年2月4日(日)

#### <催事変更の場合のお知らせについて>

当会の新型コロナ感染症拡大防止対策は、国や都、世田谷区の方針に沿って対応してまいります。状況によりご案内の催事をやむを得ずキャンセルする場合などは、ホームページの「友の会イベント」欄などでお知らせします。また、催事参加ご案内(返信)後は、対象者へお知らせします。

#### <催事参加申込み方法>

★4月10日よりホームページ「世田谷文学館友の会」>「イベントお申し込みページ」で申し込みが可能です。

★「往復はがき」でのお申し込みは、下記の事項を記入してお送りください。

- ①催事名 ②開催日・参加希望日 ③現在お持ちの会員番号(会員以外の方は「非会員」と明記)  
④住所・氏名(ふりがな必須)・電話番号(散歩応募の場合は携帯番号) ⑤今後ご希望の講座・散歩など。

連名申込み可(③と④を必ずご記入ください。また返信用はがきの宛名にも連名者氏名をお忘れなく。)

参加費は当日お支払いください。

宛先 〒157-0062 世田谷区南烏山1-10-10 世田谷文学館内 「世田谷文学館友の会」 FAX 03-5374-9120  
ホームページ 「世田谷文学館友の会」> <https://www.setabuntomo.net/> 友の会入会随時受付中!

お問い合わせは友の会専用携帯:080-1154-1562 へ。毎週火曜日10時から17時、友の会スタッフ在館。